

みんなちがっていいんやなあ

～支援学級との交流及び共同学習～

学年等

3年生 特別活動など

～支援学級生Aさん（発達障がい）が安心して過ごせるクラスづくり～

ねらい

一人ひとりが安心して過ごすことができる学級をつくる。

◇ 児童どうしが、お互いに見合い、聴き合う関係をつくる。

◇ 違う考えをもっている、それを認め合い、つながりあう関係をつくる。

【指導について】

年間を通じて、児童がつながるためのワークなどの取組みを行い、多様な考えにふれ、自分とは違う考え方を受け入れる集団にすることを意識している。また、周りの状況を判断することが難しく、感情のコントロールをすることが苦手である児童Aさんを中心に位置づけた取組みを進めた。このようなAさんへの支援は、周りの児童たちへの支援にもつながるものだと考えている。

年間の取組み

(※)『わたし出会い発見』（大阪府人権教育研究協議会編）より

<見合う・聴き合う>

* 朝の会でのスピーチ

* 帰りの会の気持ちのカード

<トラブルがあった時>

* ロールプレイングでの話し合い

* コミック会話（写真①）

<クラスの雰囲気づくり>

* ふわふわことば、ちくちくことば（※）

<協力のワーク>

* 新聞紙ジグソー（※）

* 絵合わせパズル（取組み例②）

* 大根ぬき（写真②）

* グループワークトレーニング

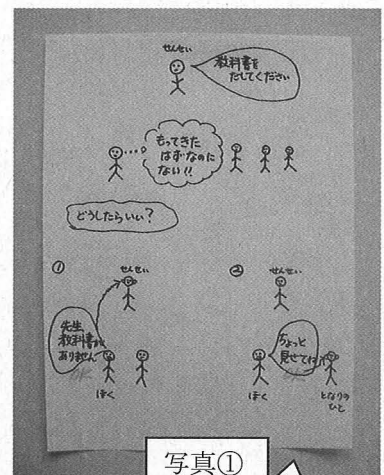
<多様性のワーク>

* 動物ビンゴ、食べ物ビンゴ

* どんな形になった？

* 不安の穴（写真③）

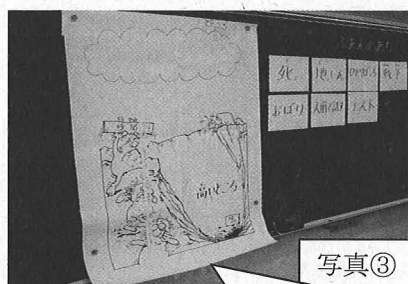
* こんな友だちが大切（取組み例①）



写真①



写真②



写真③

困ったことやめごとがあった時、3コマまんがに起こった事を書き、状況を整理する。書いて整理した後、対処法を考える。

大根チームが手をつないで固まっているのを、人間チームが引っ張って大根を抜いていく。ケガをしないように加減をしながら抜いたり、手が離れないように作戦を立てたり協力しあう。

「不安に思うことは一人ひとり違う」と多様性が実感できるワーク。「地震」「死」「戦争」「おばけ」「人前で話す」「一人ぼっち」等を、不安な順にランキングする。不安に思う心を穴の中へ落として終わるのだが、その過程で一人ひとりの思いを交流する。

取組み例

<取組み例①> 「こんな友だちが大切」

- 【目標】 人それぞれの価値観のちがいに気づく。
- 【展開計画】 第一次 こんな友だちが大切（本時）
第二次 自分はどんな友だち？
- 【本時のねらい】
- ・自分の思いや考えを友だちに伝えることができる。
 - ・人それぞれの価値観のちがいに気づくことができる。
- 【本時の展開】

学 習 活 動	予想される児童の様子	指導のポイント
<p>○アイスブレイク</p> <p>「てとてとて」ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てと」は手を上へ ・「とて」は手を下へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「むずかしい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板にルールを提示する。 ・たいこを使って、手を動かすタイミングをはっきりさせる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">「こんな友だちが大切」</div>		
<p>①ダイヤモンドランキングの説明を聞く。</p> <p>②ダイヤモンドランキングをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの上に並べる。 <p>③どうしてその順位に並べたのか理由を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 <p>④グループの人の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味がわからなくて困る。 ・悩んでなかなか並べることができない。 ・どのように書いてよいのか悩む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を黒板に視覚的に提示する。 ・悩んで並べることができない場合は、ランキングするのが2位まででもよいことを伝える。
<p>⑤自分のダイヤモンドランキングを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりでワークシートにはる。 <p>⑥自分のランキングを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ランキングを変えようか悩む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に援助する。 ・書いてあることを伝えればよいということを伝える。 ・声のものとさしで、発表する時の声の大きさを確認する。 ・班の中で発表する順番を指定する。 ・<u>自分にとって、友だちに大切な要素は何かを考えることができたか。</u> ・<u>自分のランキングの理由を友だちに伝えることができたか。</u> ・<u>自分と友だちのランキングの違いに気がつくことができたか。</u> ・友だちの話を聞いて変更してもよいことを伝える。
○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 	

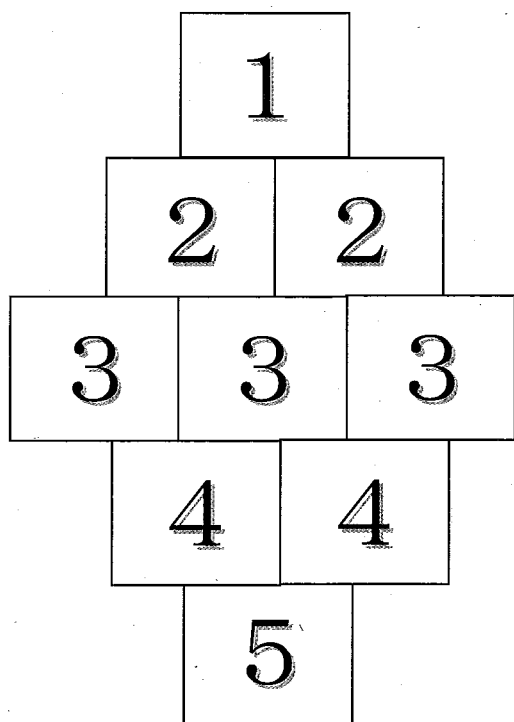
こんな友だちが大切

名前 ()

あなたにとって「大切な友だち」とは、どんな友だちですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 話が楽しい友だち | ⑥ しっばいしてもゆるしてくれる友だち |
| ② いっしょに遊べる友だち | ⑦ 一人でいたら声をかけてくれる友だち |
| ③ べん強を教えてくれる友だち | ⑧ こまったときにたすけてくれる友だち |
| ④ 自分の気持ちをわかってくれる友だち | ⑨ 話をきちんと聞いてくれる友だち |
| ⑤ ふわふわことばを言ってくれる友だち | |

上のないようをダイヤモンドランキングしてみましょう。



<どうしてこのようにならべましたか>

<思ったことを書きましょう>

<カード>

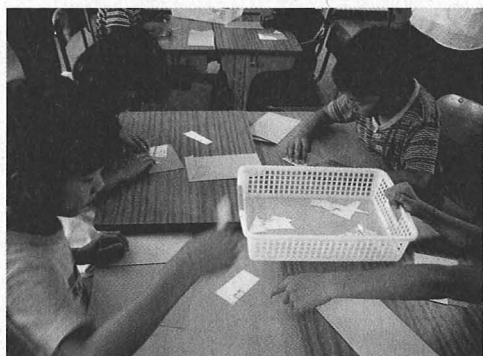
話が 楽しい	いっしょに 遊べる	べん強を教 えて くれる	自分の気持 ちをわかっ てくれる	ふわふわ言 葉を言って くれる
しっばいして もゆるしてく れる	一人でいた ら声をかけ てくれる	こまった時 にたすけて くれる	話をきちん ときいて くれる	

<取組み例②> **絵合わせパズル 「協力して絵をあわせよう」**

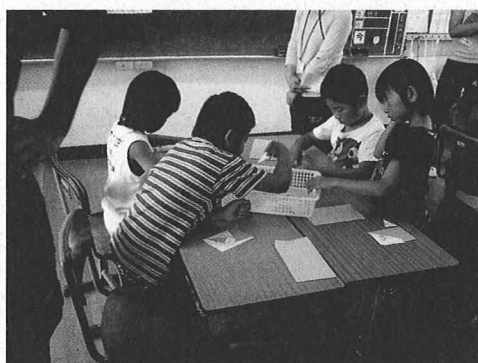
【目標】 課題解決のためには、お互いの協力が必要であることに気づく。

【本時の展開】

学 習 活 動	予想される児童の様子	指導のポイント
○アイスブレイク 「てとてとて」ゲームをする。 ・「てと」は手を上へ ・「とて」は手を下へ	・「だいぶできるようになってきたなあ」	・ 黒板にルールを提示する。 ・ たいこを使って、手を動かすタイミングをはっきりさせる。
「協力して絵をあわせよう」		
①パズルの作り方の説明を聞く。 ・言葉は使えない。 ・ジェスチャーも使えない。 ・使わないピースはかごに入れる。 ・必要なピースはかごから取る。	・「どうやってできるの？」 ・「わからない」	・ 前で見本を示す。 ・ 黒板にルールを提示する。
②グループ毎に封筒をもらう。 ③各グループで作業を開始する。	・ パズルの組み合わせに苦労する。 ・ 言葉やジェスチャーで他の人に伝えようとしてしまう。	・ ピースを組み立てるための、台紙を全員に用意する。
④作業を中断して意見を出し合う。	・「友だちが気づいてくれない」 ・「周りを見ながら作っている」 ・「教えてあげたいけど教えてあげることができない」	
⑤作業を再開する。 ・ジェスチャーは使ってよいことにする。	・ はりきって友だちに教える。	・ ルールを書いた紙を提示する。 困っている場合は落ち着くように言葉かけをする。
○振り返り ・ワークシートに記入する。	・「うまくいってよかった」 ・「ほしいピースをもらえてよかった」 ・「教えてもらえてよかった」	
○振り返りを交流する。		・ 気持ちの確認をする。



言葉が使えないと
なかなかむずかしいなあ。



<「ふわふわことば」について>

言われるとうれしくなったり、元気が出たり、心があったかくなる言葉を「ふわふわことば」と呼び、反対に、言われると悲しくなったり、イライラしたり、心が傷つく言葉を、トゲトゲがいっぱいついてい
る「チクチクことば」と呼んでいます。(『わたし出会い発見』(大阪府人権教育研究協議会編)より)

取組みを終えて

「みんなが安心して過ごせるクラス」にするにはどのようにしていけばよいだろうと試行錯誤してきたが、まずはAさんにとって安心して過ごすことができるクラスづくりをめざした。Aさんの実態を把握し、適切な支援を考え、一年間、「お互いを見合い、聞き合う関係づくり」「協力して達成感の得られる経験」「一人ひとり違うことに気づき認め合える空間づくり」を授業として取り組んだ。

その取組みを通して見えてきたことは、児童たちどうしの関わり方や関係から担任が学ぶことが多かったこと。そして、Aさんへの支援が周りの児童たちへの支援にもつながることを実感した。同時にAさんと周りの児童たちどうしのつながりが深まっていくことも実感できた。

「Aさんにとって安心できるクラス」というのは「みんなが安心して過ごせるクラス」であり、「みんなが安心して過ごせるクラス」は「Aさんにとっても安心できるクラス」なのだと改めて感じることもできた。

【 ポ イ ン ト 】

☆ 福祉教育は従来、障がい疑似体験や福祉施設訪問といった体験学習が一般的であった。しかし、十分な振り返りを行わなければ、体験が目的化してしまい、いわゆる「貧困的な福祉観の再生産」に陥ってしまう可能性がある。

この取組みは、同じクラスにいる仲間を中心にとらえ、様々なアクティビティ(ワーク)を取り入れて、クラスの中で個々の違いを認め、「障がい理解」の取組みから、「障がいのある友達の理解」へと導いている。「Aさんにとって安心があるクラス」は、「みんなが安心して過ごせるクラス」というメッセージは、ユニバーサルデザインやノーマライゼーション理念につながる大切なメッセージである。

自分たちにできることは何だろう、伝えようAさんのこと

～支援学級との交流及び共同学習～

学年等

3年生 特別活動など

～支援学級児童Aさんが安心して過ごせる学級、学校づくり～

ねらい

一人ひとりが安心して過ごすことができる学級、学校づくり

◇ 友達の状況や思いを理解し、ともに生活し学習するにはどのように行動すべきか考える。

◇ 互いに認め合い、思いやり、助け合う心をもつ。

【指導について】

3年生になり、入学以来初めてのクラス替えがあった。男女の仲はよく、休み時間や放課後も「○○ちゃん」とお互い呼び合い遊んでいる。また、困っている児童がいたら、手助けもできる優しさがある。しかし、集団行動が苦手な児童、自己主張により自分の居場所を確認する児童、自分の気持ちを抑えることが苦手な児童、複雑な生活背景を抱えながら学校生活を送っている児童もいる。このような児童の中には、自分のことで精一杯で、支援学級在籍のAさんのことを思いやることができない児童もいる。

そこで、自主教材「○○学級（支援学級）のこと、Aさんのこと」を作成し、友達の状況を理解し、友達の思いや願いに寄り添いつつ、その上に自分たちにできることを考えさせた。

【Aさんについて】

Aさんは目や足の手術と、祖母や兄が住んでいる外国への渡航のため、学校を長期欠席することが多く、友達と関わる機会が少ない。また、相手の話を理解することや自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手である。自分の思いを友達に伝えたいAさんの気持ちを受け止められる学級・学年づくり、よりよい仲間づくりのためには相互理解が必要である。

そこで、学年のみんながお互いを知り、より仲良くなるための取組みの一環として、休みがちで交流の少なかったAさんについて知ることができる機会を設定した。

取組みの流れ

<全8時間>

第一次 Aさんについて知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

第二次 自分たちのできることを考える・・・・・・・・・・5時間

第三次 Aさんのことを伝えよう・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

取組み

第一次 2時間 Aさんについて知ろう

① 知る 【○○（支援）学級のこと、Aさんのことを知る】 2h

◎ Aさんの生い立ち、家族の思いを知ろう。（保護者と話し合い、聞き取った内容を伝える）

事前に、Aさんの保護者の思いを聞き取り、指導の方針やあり方について話し合い、その内容を指導に生かすことについて承諾を得ておく。

◎ 支援学級でのAさんの活動の様子、得意なことなどを知ろう。

第二次 5時間 自分たちにできることを考えよう

② 考える 【Aさんの思いを話し合い、自分たちのできることを考える】 2h

- ◎ Aさんが得意なことや苦手なことについて知っていることを話し合い、Aさんの思いを考える。
- ◎ 自分たちがAさんのため、友達のためにできることは何かを考え、話し合う。

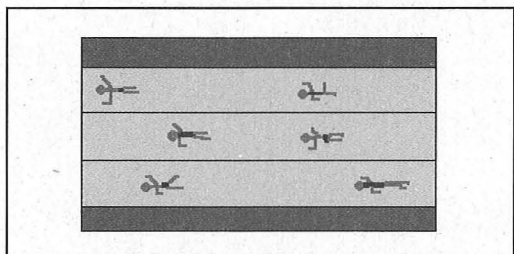
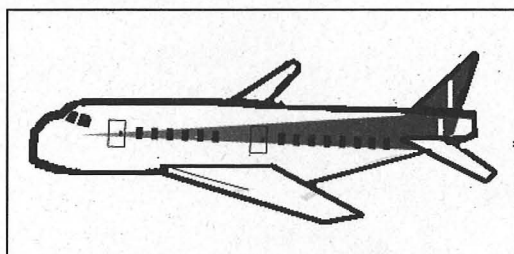
私たちがわかったAさんのこと（能力を発揮していること、気持ち、家族の思いなど）を、何も知らない下級生に知ってもらおうよ！そして思いやりのある学校にしていこうよ！

③ 動く 【自分たちで考えたことから、Aさんについての紙芝居を作る】 3h

- ◎ Aさんの状況や思いについてわかったことを下級生（1，2年生）に伝えるため、グループで紙芝居風に描き、伝える内容を画用紙の裏に書き込む。（Aさんとともに作成する）

学 習 活 動	指導のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ○ Aさんについて、1，2年生に伝えることをグループで出し合う。 ○ 画用紙に描くことを選び、書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんの好きなことや得意なこと、通常の学級での様子など、Aさんの個性が伝わるような視点で考えさせる。 ・ 低学年にわかりやすい表現にするよう伝える。

<紙芝居の例>



Aさんは何回もひこうきにのっています。

Aさんは、ひこうきがとても好きです。

Aさんはプールで、泳ぐ練習をしています。足がつかなくてもいっし、ようけんめい泳ぎます。

第三次 1時間 Aさんのことを下級生に伝えに行こう

④ 深める 【下級生に、紙芝居でAさんを理解してもらおう】 1h

- ◎ Aさんが能力を発揮していること、状況や気持ち、家族の思いを伝える。
- ◎ 学年の仲間として、Aさんが困っている時にはどのようにしてほしいかをわかりやすく伝える。
- ◎ 互いに認め合い、助け合い、思いやりのある学校にしようと提案する。

紙芝居を見せながら、1，2年生にわかる言葉で、心を込めてゆっくりとはっきりと伝える。

取組みを終えて

<児童やクラスの変化>

〔自己主張が強く、友だちとトラブルになることが多かった児童Bの変化〕

BさんはAさんに対して、からかって攻撃的な言葉を使うことが多かったが、この学習を進めるにつれて、Aさんの給食当番を手伝ったり、進んで手助けしたりするようになった。また、Aさんを気にかける発言も増えた。Aさんが転校してしまった後でも、「Aさんは新しい学校で友だちできたかな？いじめられてないかな？」と、Aさんのことを気にかけている発言がみられた。

また、少しずつ誰に対しても優しく接することができるようになり、「Bさんがこんなことをしてくれたよ。」と教員に報告する友達が増えてきた。

〔児童Aの変化〕

Aさんは優しく接するようになったBさんと活動をすることが増えた。友達の関わりの変化を感じ、穏やかな表情も増え、以前より、自分からクラスみんなに関わっていくようになった。

〔クラスの変化〕

クラスの児童は、Aさんが苦手なことをするとき、励ましの言葉や優しい声をかけたり、手助けする場面が増え、Aさんができたときにはともに喜ぶ姿が増えた。

また、Aさん以外の友達どうしについても良いところを積極的に見つけるようになり、友達が困っていたら助けるなど思いやりを持って接することができるようになった。

<取組みを終えて>

支援学級担任と協働で通常の学級での授業を行い、普段はなかなかわからない支援学級でのAさんの一生懸命な姿を児童に知らせることができた。

また、教員からの一方的な話を聞くのではなく、同級生で仲間であるAさんについて、紙芝居にして下級生に伝えるという活動の設定をすることで、様々な状況にあるAさんの思いや周りの人たちの思いを自分で考えることができ、その思いをより共感することができたように思う。

さらに、同級生のために紙芝居を使ってAさんの思いを一生懸命に伝える3年生を見て、下級生は優しさなどを訴えようとする何かを感じることができたに違いない。

さらに、Aさんを中心にすえた取組みから、Aさんに対してだけでなく仲間が困ったときへの気づきにつながってきており、これからも様々な福祉教育の取組みを進める中で、継続して思いやりの心を育てていきたい。

【ポイント】

- ☆ 平成17年に出された中央教育審議会の「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」では、「学校全体で特別支援教育を推進することにより、いじめや不登校を未然に防止する効果も期待される」と示されている。

この取組みは、障がいのある児童を学級の仲間の中心に位置づけて、「ともに生活し、ともに学ぶこと」の大切さを自分たちの学級だけでなく他学年に対しても働きかけるといった、福祉教育と特別支援教育を一体化した学校全体への「障がい者を取り巻く課題と、障がいについての理解を深める教育」としての実践である。